



《将来に向けた取組方針》

東急グループでは、1997年に「美しい時代へ」をスローガンに掲げ、人々の多様な価値観に対応した「美しい生活環境の創造」を自らの事業目的として、その実現に取り組んでおります。また、環境方針として「自然共生社会への貢献」を目標として定め、当社では事業が自然環境に与える影響に配慮し、生物多様性の保全を進めてまいります。

〈東急の取組み事例〉



東急

多摩川流域環境の保全



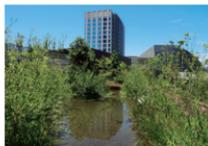
「憩いの風景」撮影：中井 精也 環境学習副読本「ようこそ多摩川へ」

当社は、1974年設立の多摩川流域の環境保全に取り組む「とうきゅう環境浄化財団」（現 東急財団）への支援を行っています。同財団では流域における環境浄化・改善に関する調査研究やその助成、行政への協力、広報活動などを実施してきました。また、地域の子どもたちに自然や川のめぐみに対しての知識や親近感を持ってもらうことを目的に、多摩川流域の小学校などに向け環境学習副読本を配布することで、未来の人材育成にも貢献しています。

自然共生社会に貢献するべく、まちづくりにおいて事業が自然環境に与える影響に配慮し、生物多様性の保全に努めています。

生物ネットワークの構築

「二子玉川ライズ」（東京都世田谷区）屋上では、周辺の植生を施設内に再生することで、多摩川と国分寺崖線をつなぐ生物ネットワークの維持・保全に取り組んでいます。ビオトープには数百匹のミナミメダカ、ドジョウ、モツゴやカメなどが生息し、多摩川固有の水辺環境を再現し、その環境を地域で活動する方々と整備しています。また多摩川流域にも生息し、絶滅危惧種であるカワラノギクの保全を行っており、開花の季節には地域の環境学習の場としても機能しています。



ビオトープ「めだかの池」



池を泳ぐカルガモの親子

環境と調和する街づくり



公園へとつながるパークプラザ 南町田グランベリーパーク駅

「南町田グランベリーパーク」（東京都町田市）は「まちのぜんぶが“パーク”となる」をコンセプトに、町田市と連携・共同して、駅・商業施設・都市公園を含む約22haものエリアを一体的に再整備し、まちびらきをしました。商業施設の外構部に花や実のなる樹木などを植栽することで、鳥や昆虫類の生息を促し、隣接する鶴間公園という地域資源やグリーンインフラも生かした、豊かな自然とにぎわいと融合を実現したまちづくりとなっています。

東急株式会社は、今後も積極的な取り組みを通し、自然共生社会への貢献から生物多様性の保全に努めてまいります。